

ツキノワグマ 富士地域の個体群 *Ursus thibetanus* G. Cuvier, 1823

クマ科 Ursidae

静岡県カテゴリー 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) (要件-①) 変更なし

[2004年版カテゴリー 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

: 環境省カテゴリー 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) (静岡県該当なし)]

1. 種の解説

頭胴長 120~145 cm、体重 70~120 kg。県内最大の陸上哺乳類である。全身黒色で、胸部の白い三日月形の斑紋は個体により異なり識別に利用できる。雑食性で、春には若芽や草本類、夏には果実や昆虫類、秋には堅果類を多く摂食する。樹洞などで冬眠する。

2. 分布

国外ではヒマラヤの南側山麓部から東南アジア北部、中国東北部、台湾など、国内では本州、四国に分布する。九州では絶滅した可能性が高い。県内では、県中・西部と富士地域に分布し、伊豆地域では絶滅した。移動能力は高く、秋季に 20 km 以上を往復した県内追跡個体もいた。

3. 生息環境

山地帯のミズナラなどの落葉広葉樹林を中心に生息する。富士地域は天然林の面積が少なく分断化されているため生息環境が限られ、頭数も少ないと考えられる。本地域では、木が傾いて浮いた根の下にできた隙間や溶岩樹型の中での冬眠も確認されている。

4. 生息状況

県中・西部では 1992 年以降分布拡大や個体数増加が推察されるが、富士地域では富士山、天子ヶ岳～毛無山、三国山～不老山で生息が確認されているものの、愛鷹山では 2006 年の確認を最後に生息情報がない。

5. 減少の主要因と脅威

富士地域は生息に適した落葉広葉樹林が少なく、森林の不連続性 (23、24) も負の要因である。加えて、ニホンジカの採食圧による林床植物の衰退に伴い、食物資源の減少、カバー (遮蔽) の喪失が生じている (71)。さらに、ニホンジカ捕獲用の足くりわなに本種が錯誤捕獲 (41) されている。

6. 保護対策

狩猟獣だが、静岡県猟友会は 1992 年から狩猟による捕獲を自粛している。足くりわな、箱わなで錯誤捕獲された場合は、放獣に努めている。県は、被害防止目的の捕獲について、市町に許可権限を移譲していない。また、原則、県中・西部のクマハギ (造林木の樹皮はぎ) 被害に対してのみ捕獲許可を出している。

7. 特記事項

愛鷹山では、2016 年に愛鷹山～前岳稜線、裾野大沢、須津川など 15 ヶ所での誘引を伴う自動撮影と聞き取り調査を行ったが、生息情報はえられなかった。

8. 主な文献

静岡県 (1978) 第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (哺乳類). 24 pp.

静岡県環境部自然保護課・静岡県林業技術センター・(株)野生動物保護管理事務所 (1998) 特定鳥獣生息調査報告書—静岡県におけるツキノワグマの生息実態—, 20 pp.

静岡県林業技術センター・静岡県環境森林部自然保護室・静岡野生動物研究会 (2005) 静岡県ツキノワグマ生息調査報告書 (1998~2002 年度). 104 pp.

9. 標本

静岡市葵区産: ふじのくに地球環境史ミュージアム

(大場孝裕)



静岡市葵区田代二軒小屋 2015 年 7 月 15 日 三宅 隆

